



何事も人任せにするのではなく、自分たちの地域をよりよくしようと思うことが大切だと思います。この長浜公園をもっとよい公園にしていきたいです。

ー長浜公園では、地域のみなさんが主体となって清掃活動やイベントなど様々な取組みをされていますが、何かきっかけがあったのですか？

舞鶴地区内には浜の町公園と長浜公園がありますが、私たちが活動している長浜公園は舞鶴1丁目の地内にあります。親不孝通りを境に天神3丁目と接しているのですが、校区も違いますし、これまで天神3丁目の住民のみなさんとはあまり交流がありませんでした。そんな中、福岡市が親不孝通りを再整備するのをきっかけとして平成28年に天神・舞鶴「親ふこう通りまちづくり協議会（現：親不孝通りエリアまちづくり協議会）」を立ち上げることになったんです。協議会には、舞鶴1丁目と天神3丁目の住民のほか、中央警察署の天神特別対策隊や親不孝通り商店会、保育園なども参画いただいています。これがきっかけとなって、関係者との交流が深まり、清掃やイベントを積極的に行うようになりました。

ーみなさん楽しみながら清掃をされているように見えます。

いえいえ、公園の周辺に住む者として義務感や責任感でやっているところもありますよ。でも、どうやったら「楽しく、無理なく、負担を感じないようにできるか」をみんなでも考えました。

その一環として協議会内でつくったユニフォームは好評です。私たちは「ごみゼロ・落書きゼロ・飲酒運転ゼロ」を目標とした“スリーゼロ活動”に取り組んでいるのです





が、そのロゴを背中に大きくプリントした青いジャンパーを作ったのです。清掃やイベントの時には必ず着用するようにしているので参加者の一体感が生まれています。このユニフォームがとても目立つようで、清掃していると自然と周辺の住民の方も手伝ってくれますし、地区外の方からも「いつも掃除をされていますね」と声をかけていただいています。活動を地道に継続している効果が出ているんだろうと思います。

現在、定例の清掃は毎週日曜日の午前中に町内会の役員6～7人で行うのに加えて、毎月第4日曜日には町内会全体で行っています。さらに毎月第3日曜日は協議会全体で長浜公園だけではなく親不孝通りも含めて清掃しています。参加できない場合は連絡し合う仕組みをとっているため、参加率は高い方だと思います。定例のもの以外にも、イベントに参加した人たちが見つけたゴミを自主的に掃除するようになっています。

ー長浜公園はどのような公園ですか？

昔は、公園に入るのにも抵抗があり子どもにとっても遊びにくい公園だったと思います。周辺のまち自体が「予備校のまち、若者のまち」というイメージでしたしね。低い樹木が生い茂っていて見通しも悪いし、暗がりにはゴミのポイ捨てもされて汚いところもありました。そのため、まずは区役所をお願いして低い樹木を切ってもらうことにしたんです。そうしたら、見通しもよくなって公園の利用者が徐々に増えていきました。

舞鶴小・中学校ができて、この地区の雰囲気が変わったことで公園も変わってきています。ファミリー層が増えて保育園も新設されたので、子どもが公園で遊ぶようになりました。天神3丁目の人たちも長浜公園にくるようになり、いまでは公園内で花見や夏祭りのイベントも開催していて、地域のランドマークになっています。

ー開催しているイベントについて詳しくお聞かせください。

毎月第3日曜日に“パークピクニック”というイベントを開催しています。ネーミングには「公園でピクニックをできるようにしよう」という思いを込めました。南池袋公園を視察したときに、公園の利用者がゆっくりお弁当を食べたり、音楽を聴いたり、思い思いにのんびり過ごしていて「こんな公園を目指したいな」と思ったからです。

イベントでは、近所の人たちが公園にピクニックをしに長浜公園に出てきてもらうことが目的ですが、それだけだと子どもは飽きてしまうので、子どもが遊べるように大きなトランポリンを置いています。親不孝通り商店会からキッチンカーも出してもらっています。

大きなイベントとしては、3つの町内会から協賛をもらって夏祭りを行っています。数年前までは1日しか開催していなかったのですが、子どもがたくさん来て夜遅





くまで遊んでくれるので昨年は2日間開催しました。グラウンドの方では親不孝通り商店会などが屋台を設置して規模も大きくしました。商店会とは役割分担しながらうまく連携を図っています。

他には、イベントではないですが、公園内に可動式のイスとテーブルを常時置いています。コロナの影響でテイクアウトやキッチンカーなどを利用して屋外でランチをする風潮ができたので、公園の中でご飯を食べる人も増えています。晴れて気持ちのいい日には、設置した椅子がすぐに満席になるほどです。

—清掃やイベントなどを継続されて、地域で変わってきていることはありますか？

イベントなどを定期的で開催しているので、10年前は長浜公園に無関心で近寄らなかった人たちも来るようになりました。少しずつでも利用者が増えてくると、みんなも「何してるのかな」と気になるみたいです。



公園を利用する頻度が増えると、いろいろなことが見えてくるようで、「目の前の公園にドングリやヤマモモがあるなんて知らなかった」という新しい発見の声もよく聞きます。木の根っこが地中から飛び出していたりするのも危ないと気づくようになって、危険なところを話し合う風土ができています。当然、公園内のゴミについても目につくようになるので、みんな清掃に参加してくれるようになりました。先ほどお話したユニフォームは参加者が増えるたびに追加で作って配布して、チームの一体感を醸成しています。

—公園内での住民同士の交流も増えていますか？

掃除やイベントのときに参加者同士で話したりするので、親しくなるきっかけになっています。町内会の役員である私たちも、地区内の住民全員のことを詳しく知っているわけではありません。こういう機会にお互いに知り合って親しくなると、いざというときに支え合える深い付き合いが始まっていくと思います。町内会の総会にも声をかけやすくなりますね。親しくない人から急に総会に呼ばれても、相手は困るでしょうし。親不孝通り商店会の中にもいろいろな店舗があることを改めて知りました。互いにコミュニケーションをとれるようになったからこそ、分かったことが多いです。

とはいえ難しいところもあります。秋になる前に公園内の落葉樹を剪定したら、「紅葉を見たかったのに」と苦言を呈されたことがありました。その方の気持ちも分かりますが、落葉

樹の落ち葉を清掃するのは本当に大変で、それをするのは私たちです。こういうところで地域内の合意形成を取っていくのはとても難しいですね。

—長浜公園のような取組みを他の公園に広げていくためにはどうすればいいでしょうか？

何事も人任せにするのではなく、自分たちの地域をよりよくしようと思うことが大切だと思います。そういう人が一人だけいても物事は進まないなので、協力してくれる人も必要です。

そして、その活動を地道に継続していくことも重要ではないでしょうか。長浜公園の取組みは幸いなことに多くの人に賛同をいただけるようになって、他の町内会からも注目されるようになりましたが、周りの人とコミュニケーションを取りながら地道に活動してきた効果だと思っています。

やはり、公園に行くと楽しいですし、ほっとします。パークピクニックや夏祭りは準備も後片付けも大変ですが、子どもが楽しんでいるのを見ると、心が癒されます。最近では、周辺の幼稚園の園児たちが長浜公園で遊んでくれています。幼い子どもが楽しんでいる姿を見て、高齢者も喜んでいます。この長浜公園の雰囲気を維持したいですし、もっとよい公園にしていきたいです。



(お話を伺ったお相手)

長浜公園愛護会 会長 重 孝義さん
副会長 蔦野 智香子さん

